

研究課題名

「自己免疫性膵炎(AIP : autoimmune pancreatitis)に対する
経口ステロイド維持療法 3 年以後の再燃予測因子について」

研究機関

信州大学内科学第二講座

研究責任者

信州大学内科学第二講座 助教 伊藤 哲也

問い合わせ先

信州大学内科学第二講座 電話 0263-37-2634

研究の目的・手法

自己免疫性膵炎とは、閉塞性黄疸で発症することが多く、典型的にはびまん性膵腫大を呈し、時に膵癌との鑑別を要する自己免疫が関与する膵炎です。他にも胆管、涙腺・唾液腺、肺野、縦隔リンパ節、後腹膜、動脈周囲など他臓器に病変が出現することがあり、ステロイド治療に劇的に反応しますが、ステロイド中止後の再燃が多いとされます。本邦では 3 年間でステロイド少量投与継続の目安のひとつとされていますが、実際には 3 年以降も治療が継続されることが多い状況です。ステロイド長期投与による副作用を考慮し、可能であれば一定期間の治療後、投与中止が望ましいと考えます。3 年以降の再燃を予測できる因子の同定を目的とした研究になります。対象は、2015 年 12 月 31 日までに当院で自己免疫性膵炎として 5 年以上治療が行われた方で、これまでに行われた血液検査結果や CT などの画像検査について評価し、3 年以降に再燃された方、されなかった方を比較検討します。

個人情報の取り扱い

研究結果を公表する際には、被験者を特定できる情報を含まないように、個人情報保護に十分配慮いたします。

試料や情報の利用を拒否する権利

上記研究の被験者に該当すると思われる方で、研究の内容や施行についてご了承いただけない場合には、研究の対象から削除いたしますので、御連絡ください。